

2004 年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日2005年

1月 31日

I 概要

実践団体担当者名	第5回地震火山こどもサマースクール「Mt. Rokkoのナゾ」実行委員会（担当者：中川和之）	
連絡先	電話045-892-4262	
プランタイトル	第5回地震火山こどもサマースクール「Mt. Rokkoのナゾ」	
目的	時に災害を引き起こす地震は、平時に人が暮らしやすい土地を作り、景観や水源、温泉などを与えてきた。見慣れた風景の中に、歩きなれた坂道に、道路や鉄道に、流れる川に、地震や火山が隠れています。第一線の研究者が小中高生の視線に立って、地形の観察や実験の指導と講義を行い、六甲山の麓に住むこともたちに自然災害の本質を理解する感性を養うことが目的です。	
プランの概略	【メイン行事】 ・1日目 8月7日（土） 人と防災未来センター 実験とお話し ・2日目 8月8日（日） ・ロープウェイで布引ダムの断層見学 ・六甲山上から六甲山と大阪湾の観察（バスで移動） 人と防災未来センターでまとめ発表 【サブ行事】 ・1月15日 - 人と防災未来センター見学 - こども討論うち合わせ - CAP HOUSE フォーラム参加 ・1月16日 - 神戸宣言のディスカッション - メモリアルカンファレンス inKOBEX こども討論「私たちは何を受け継いでいかなければならないのか？」、神戸宣言 総合討論	
プランの対象と参加人数	メイン行事 地元を中心にした小中高生、21人 サブ行事 過去のサマースクール参加者10人	
実施日時	2004年8月7、8日 2005年1月15、16日	
主な実施場所	人と防災未来センター 六甲山	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有
	連携した団体名	メモリアルカンファレンス inKOBEX 実行委員会
	連携したきっかけ・理由	1999年の第1回地震火山こどもサマースクールもきっかけにして、2000年のメモリアルカンファレンス inTOKYOでこどもたちを対象にしたプログラムが組まれたこともあり、関連プログラムとして取り入れてもらった。
	連携団体へのアプローチ方法	当実行委の委員長が、メモコンの実行委員でもあり、メモコン事務局を担った実行委員のも、当実行委のスタッフで、場所も同一と、プログラム連携が図りやすかった。
	連携団体と打合せ回数	メモコンの実行委員会で実施
	連携団体との役割分担	メモコンの1プログラムを、当実行委で担うことにしていた。

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案メンバーの人数・役割	団体内のスタッフ総人数	15名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	地震学会理事・実行委員長 橋本学 京大防災研究所教授 火山学会事業委員長・実行委員 小山真人 静岡大学教育学部教授 兵庫県・人防衛実行委員 藤森龍 人と防災未来センター普及協力課 プログラム企画・調整 数越達也 兵庫県立友が丘高教諭 実験プログラム企画・調整 宮島衛次 北海道立理科教育センター 相原延光 神奈川県立西湘高校 地震学会普及行事委員長・事務局長 中川和之 時事通信記者 資材・ロジ、メモコン調整 福岡龍史 エフエムプランニング
プラン立案に要した日数・時間	立案期間	2003年10月6日 ～2004年 6月11日
	立案時間	メーリングリスト約250通 物理的のう合わせ時間：12時間
	上記のうち打合せ回数	4回
プラン立案で注意を払った点工夫した点	・プログラムは、六甲山を実感できるようにする。 ・実験は全て体感できる内容とする。 ・実施するだけでなく、できるだけ人と防災未来センターを初めとして、地元の財産に残るようにする。 ・外部スタッフは、今後、地域で同種活動を考えている人を登用する。 ・できるだけ映像記録を残すようにする。	
プラン立案で苦労した点	・限られた時間内で、六甲山を実感できる野外コースの設定 ・子供たち同士の議論の時間の確保 ・伝える材料の絞り込み ・京大防災研での研究集会との日程調整	

Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	20名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	プログラム企画・実験とお話しの資料作り 橋本学・京大防災研究所教授 鎌田桂子・神戸大助教授 丸山正 産業技術総合研究所活断層センター 寒川旭 産業技術総合研究所関西センター 武村雅之 鹿島建設小堀研究所 小林郁雄 人と防災未来センター上級研究員 石黒耀 作家（「死都日本」作者） 宇井忠英 環境防災総合政策研究機構専務理事 宮島衛次 北海道立理科教育センター 相原延光 神奈川県立西湘高校 ほか4人 全体進行・コーディネート・事務局 中川和之 時事通信記者 数越達也 兵庫県立友が丘高教諭 藤森龍 人と防災未来センター普及協力課 福岡龍史 エフエムプランニング ほか2人
準備に要した日 数・時間	準備期間	2004年 6月11日～ 05年 1月14日
	準備総時間	メール 約1000通 物理的うち合わせ時間 合計25時間
	上記の内打合せ回数	5回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	地元校長会
	どのように働きかけたか	人と防災未来センターから募集チラシの配布を依頼した
	結果	地元中学校から2人の参加があった
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	特になし
	どのように働きかけたか	
	結果	
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	特になし
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	参加者への88ページのハンドアウト資料 pptなどの教材 実験資材（立体視鏡、スライドケースなど断層実験キット、引き出しの間仕切りなど揺れの実験キット、ブラケースと砂など液状化実験キット、各種地震計など地震計実験キット） 野外観察ポイントラリーのコースマップ チームフラッグ、自己紹介ゲームカード、チームバンダナ なまずカード、うりぼうカード、イカリカード、いのししカードなど（カードデザイン.doc 資料参照）。 撮影資機材

	入手先・入手方法	資料類やカード、旗などは講師、実験スタッフなどが出わけして作成。 断層実験のスライドケースは、考案者の岡本義雄地震学会学校教育委員長から分けてもらう。 立体視鏡や、地震計は、橋本研究室などから。 撮影資機材は、FMプランニングと須磨友が丘高などから。
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	大半が自作資材なので、特に選んだわけではないが、地震計は扱いやすいものと、中の仕組みが見えるものを選んだ。
参加者の募集	募集方法	兵庫県庁クラブで資料配付をするとともに、インターネットにホームページを開設し、各種 ml でも広報した。 人と防災未来センターに往復はがきでの申し込みとした。
	募集期間	2004年6月11日 ～7月20日(8月2日まで受け付けた)
	参加予想人数	40名
	実際の参加人数	21名
	募集方法の成功点	往復はがきは、返信の面に準備した案内をできるなど、返信の取り扱いが楽である。
	募集方法の失敗点	地元教育委員会に、もっと徹底的にプッシュすべきだった。地元の学校に戸別訪問すれば良かった。地元でも、小学校ではチラシが回ったが、中学校では生徒まで回らなかったという。ホームページからの申し込みを可能にしても良かった。
準備で苦労した点・工夫した点		中国地震学会からの高校生訪日や、京大防災研での地震火山教育の研究集会との日程調整があり、日程が早めに決められずに困った。一方で、京大防災研の研究集会で交通費助成があったため、こちらの行事にスタッフ参加してくれる人の交通費負担が少なく済んだし、速報的な報告も出来た。

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2003 8月	次年度の実施場所について検討	8月2, 3日実施の第4回地震火山こどもサマースクールで、震災10年も前に神戸・六甲での開催方針を意見交換	
10月	実施への段取りを確認	秋の地震学会で関係者のうち合わせ実施。関連行事との調整	
2004 1月	実施母体の検討、実行委委員会の結成準備	地震学会と、人と防災未来センターとのうち合わせ。震災の周年事業助成の申請を検討。チャレンジプランの申請 メモリアルカンファレンスへ関連プログラムの提案	
2月		六甲山のことについて、核になる研究者との調整。	
3月	日程の確定	両学会の次年度計画に、盛り込み チャレンジプラン採択 京大防災研究集会の採択が決定、地震火山こどもサマースクールは8/7-8/8、研究集会が8/9-8/10 メーリングリスト開設	
4月		メーリングリストで調整	
5月	9日第1回実行委員会 13日人防でうち合わせ	幕張の合同大会会場で、第1回実行委員会を開催。概要の検討、確認。周年事業の助成申請準備、兵庫県防災企画課も実行委に参画。メーリングリストでプログラム検討	
6月	11日、プレスリリース、募集開始 26日、第2回実行委、六甲山など現地見	兵庫県庁記者クラブで、資料配付。ホームページ開設。第2回実行委員会、9人が六甲山、人と未来防災センターの下見。プログラム詳細確認、メーリングリストで分担整理	
7月	16日、第3回実行委 17日、MBSラジオで宣伝	実行委で、詳細確認。メーリングリストで当日資料作成など。MBS「ネットワーク117」出演、行事紹介。募集延長	
8月	6日、事前準備	配付資料準備、うち合わせ	Mt. Rokkoのナゾ、実施。小中高生21人参加
9月		メーリングリストで実施報告整理	
10月	過去の参加者アンケート実施 23日、チャレンジプラン中間報告	メーリングリストで、メモリアルカンファレンスのプログラム検討	
11月		メモリアルカンファレンスのプログラム検討	
12月	10日、メモコンのうち合わせ	メモリアルカンファレンスのプログラム検討	
2005 1月			15, 16日メモリアルカンファレンス in KOBE「こども討論」分科会でパネルディスカッション

V実践の詳細

【A. 素材】（メインとなる活動の準備から片付けまでを時系列をおって記入して下さい。）

第5回地震・火山こどもサマースクール「Mt. R o k k oのナゾ」

講師スタッフ

橋本学	京大防災研究所教授（実行委員長）	鎌田桂子	神戸大助教授
丸山正	産業技術総合研究所活断層センター	寒川旭	産業技術総合研究所関西センター
武村雅之	鹿島建設小堀研究所	小林郁雄	人と防災未来センター上級研究員
石黒耀	作家（「死都日本」作者）	宇井忠英	環境防災総合政策研究機構専務理事

実験スタッフ

宮島衛次	北海道立理科教育センター	相原延光	神奈川県立西湘高校
荒井賢一	栄東高校	前田哲良	都立三鷹高校定時制
中島健	滋賀県立守山中・高校	根本泰雄	大阪市立大学大学院理学研究科
中尾節郎	京大防災研究所（1日だけ）	佐藤明子	平塚市立神田中学教諭（1日だけ）

チームサポーター（大きなこども）

吉村裕司	京都都市青年団（KCYAC）団長	小村隆史	富士常葉大講師
土井恵治	東大地震研究所助教授	中橋徹也	東京大学大学院工学系研究科
山田雄太	関西大工学部（人と防災未来センター）	水本有香	人と防災未来センター震災資料専門員
松下舞衣	静岡大学	柏木巳喜子	平塚防災まちづくりの会
大西清美	茨木市立春日小教諭	永井敦子	京都市立向島小教諭

記録・資料・プログラム標準化チームスタッフ

小山真人	静岡大学教育学部教授	干場充之	気象庁予知情報課
南島正重	都立小石川高校教諭	福岡龍史	エフエムブランニング
柴田ふみ	静岡大学	大河平（おこひら）愛子	静岡大学
伊東有里	人と防災未来センター震災資料専門員	佐藤ちなみ	人と防災未来センター震災資料専門員
惣田くみ子	人と防災未来センター震災資料専門員	山村由華	人と防災未来センター震災資料専門員
溝上晶子	須磨友が丘高校放送委員会	富田彩	須磨友が丘高校放送委員会
原美由紀	須磨友が丘高校放送委員会	山路はるか	須磨友が丘高校放送委員会
道岡誠	エフエムブランニング・カメラマン	西田英樹	エフエムブランニング・カメラマン
平山福次	エフエムブランニングアシスタント	奥田智晴	大阪市立大学
福住哲也	大阪市立大学大学院	羽田野みゆき	須磨友が丘高校放送委員会

進行・コーディネート

中川和之	時事通信記者	数越達也	兵庫県立友が丘高教諭
------	--------	------	------------

事務局

藤森龍	人と防災未来センター普及協力課	外寄良一	人と防災未来センター企画運営部
-----	-----------------	------	-----------------

8月7日

- 8：30 受付開始
- 9：15 最終受付者 受付終了
- 9：15 オリエンテーション
実行委員長挨拶
- 9：20 アイスブレイク （佐藤）
自己紹介ゲーム 面識のない人の名前を自分のカードに書いてもらう。
チーム別に、全体で何人集めたかを集計 ごろごろ71、 東おたふく53、まや52、 諏訪61、ヨコオ59
「なまずカード」、「いかりカード」などのカードのポイント制を説明
- 9：40 六甲のなぞ （数越）
「窓の外を見て何がわかるかな？」→ チームごとに10分間窓の外を見る。
- 9：50 十分に窓の外を見たチームからセミナールームに移動（ここでトイレ休憩5分間）
- 9：57 講師紹介（小林、宇井、寒川、武村、鎌田、丸山）
各チーム3つづつ、窓の外の風景で気がついたことを発表
- ・ 六甲は火山？なぜ、「六甲」というのか？なぜ、震災後も高速道路を作ったのか？
 - ・ 山並みが崖っぽい。同じ標高。山はそれほど高くない。山が海に近い
 - ・ 建物があるところまでしかない。目立つ山がない。海と山が平行。
 - ・ 標高が急に高くなっている。山が横に連なっている。木の種類がばらばら
 - ・ 山の名前がついているのとついていないのがある

- 10:05 4つのナゾ (橋本) → このサマースクールの最後にチームごとに発表してもらう。
- ・ 六甲山はなぜここのにあるのか？
 - ・ なぜ、神戸で地震があったのか？
 - ・ 六甲山を作った大地の営みの恵みは？
 - ・ この地でどう暮らしていけばよいのか？
- 10:17 断層はどこに (橋本)
- ・ 野島断層、新神戸駅近く、元町周辺(町の中)の断層を立体視
- 10:40 兵庫県南部地震の正体は？ (橋本)
- 子供からの質問は、特になし。
- (子供への質問) この地震で六甲山は高くなった？低くなった？
- 10:55 終了 (最初の質問のA4の紙の回収)
- 5分休憩
- 11:00 古新聞を引く。
- 断層実験(宮嶋)
- 小麦とココアを交互に入れ、上から押してならず。カードで側面をきれいにする。5層作る。
- ・ チームで一番いいのを選んで、チーム対抗。
- 11:35 活断層の正体は何か？ (丸山)
- ・ クイズ1 粒子結晶 断層に近いほど細くなる。5つの写真に番号をつけよ？
 - ・ クイズ2 右横ずれで2km。 1m/千年 だと何年 → 200万年
- 11:58 西日本にかかる大きな力 (橋本)
- ・ ハワイは日本に近づいている。
- 将来、ハワイに歩いていけるようになる？ ウソ、ホント？
- プレートの動き。年間8cm。これは、何の動きと一緒に？(身長、つめ、などなど)
- 12:10 昼食
- 12:59 活断層が動いた証拠をさぐる(寒川)
- ・ 野島断層の写真 活断層は写真中のどこ？
 - ・ 山のふもとに活断層があるのはなぜ？
 - ・ 断層の写真 断層はどこ？
 - ・ 右横ずれ断層と左横ずれ断層の説明
- 子供からの質問はなし
- 13:32 どこで揺れて何が起こる(武村)
- 13:52 実験ガイダンス 2チームは1Fに、3チームは屋外に。
- (トイレ休憩)
- 13:59 移動
- 14:05 地震計実験をするにあたりマイクをつける。録音開始。
- ・ 地震計って何？ 地震計の観察
 - ・ 地震計の説明(根本、中尾)
- 中の白いものがどうなる？どこを中心に動いている？支点はどこ？
- ばねはどこ？ どのような種類のばね？磁石はどこ？
- 磁石の真ん中にあるものはなに？
- ・ みんなで地震をおこそう。
- チームごとにジャンプ → 振幅の大きさの競争
- ・ 地震計を1mごとに並べてカケヤ → 地震波は伝播して行くことを確かめる。
 - ・ 普段の時、地面はゆれている？ 揺れていない？
- 微動の測定 → 微動の原因は何？
- 14:45 交代、移動
- 14:50 建物の揺れと液状化実験 (相原)
- ・ 建物の模型を作る。
- 大きく揺らしたり、細かく揺らしたりしよう。→揺れる場所が違うことを確認。
- 揺れないようにするにはどうすればよいかな？→斜めに入れたり左右対称にしたり
- 15:20 液状化実験 (相原)
- ・ 各チームでCD ケース(中区切りあり)に乾いた砂と湿った砂とをいれる。
- 砂を手で押さえて固める。(振動を与えてはいけない)
- 建物の模型として、積み木をおく。揺らす。
- ・ 液状化実験その2 (中島)
- 建物の代わりに石。ライフライン代わりにピンポン玉を砂中に。ハンマーでたたき

てみると、ピンポン球が土の中から出てくる。

15:40 終了、移動、休憩

15:55 実験のおさらい (武村)

15:14 六甲山を作っている石の話 (鎌田)

16:27 巨大噴火 (石黒)

16:59 終了

質問 世界で一番おきな爆発は？→ 大きなカルデラという意味では、インドネシアに世界最大のある。
火山で一番多く噴火したのは？→ 世界最大の火山という意味ではハワイだろう。陸上では、北米
に1600 万年前の、数10 km×500 km程度の溶岩流の跡がある。

16:45 「4つのナゾ」についてもう一度考える。(25分間、チームごとに)

17:15 明日の予定 (数越) 集合の場所の確認、・持ち物、・雨天の場合の確認

17:30 解散(人防の見学をしていない人は見学へ)

8月8日

8:15 先行スタッフ新神戸駅に集合 車で移動。鎌田、相原、干場、宮嶋、丸山、数越、根本、宇井、荒井、南島

南島は往復後車を新神戸駅前駐車場に駐車し、ロープウェイで上がり、中川と伴に新神戸駅北のトイレのある曲がり角に待機。緊急対応に備える

8:30 チームと伴に行動するスタッフ集合 オリエンタルアベニュー広場 中川、小林、天川、武村、藤森、中島、橋本、前田、大きなこども、記録・資料・プログラム標準化チーム

8:35 ロープウェイのハープ園駅付近に到着 各ポイントで事前説明を受けながら徒歩にて移動
福岡車および南島車で2往復

9:00 こども集合 オリエンタルアベニュー広場集合 地下鉄新神戸駅改札口で誘導

チームごとに点呼(大きなこども)、本日のコースである布引きマップを全員に配布。本日のクイズを印刷した用紙をチームリーダーに2枚渡す(中川)。クイズの問題を読ませておく。ポイントラリーの開始。
「クイズの答えはしおりに記入しなさい。途中で答え合わせをしてチーム対抗の得点になります」。

9:10 揃ったチームから、大きな大人がロープウェイ乗り場まで誘導。トイレ確認。

9:30 (先頭) ロープウェイ運行開始。中島、橋本、前田は最初の便に乗りチェックポイントへ向かう。記録・資料・プログラム標準化チームで必要な人員を先に乗せる。こどもチーム搭乗。6人乗りゴンドラ1台に必ず大人が一人乗る

Q1 「集合場所からロープウェイ乗り場に行く間に途中の階段から、断層が通っていることがわかる風景が遠くにみえます。それはどこですか。ヒント は ロープウェイ駅の中から前方に見える崖だよ。」

Q2 「ロープウェイの中から新幹線の神戸駅、布引きの滝、布引きダムを観察しよう。どんな地形が見えるかな・断層はどこにあるのだろうか。神戸駅はどんな場所にあるのかな。」

9:40 (先頭) 風の丘駅下車 階段を下りて2階の出口付近に集合する。(出口の誘導 中島)

この先1時間くらいはトイレがないので、トイレに行っておくよう注意(大きなこども)

チームごとに揃ったら、出口を出て車道を右へ上る。すぐに風の丘がある。

観察ポイント1 風の丘5分 橋本、前田(全チーム通過後、最後尾を歩いて下る)

Q3 「風の丘は断層の上にあります。断層のつくった地形を周りの風景の中から捜してみよう。」

よい質問にはカードを渡す。答えは言わない。

10:00 (先頭) 観察ポイント2 道路脇花こう岩の路頭5分 鎌田、相原

花崗岩の路頭で鎌田さんより花こう岩の説明を聞く

Q4 「深いところのできる花こう岩をなぜ地表で見ることができるのだろうか。」

道路を下ると、すぐに左側に布引きダムへ下りる山道がある。山道の入り口ガードレールに張り紙をする(数越)。山道を下ると、ダム湖の周囲の登山道にでる。

10:15 (先頭) 干場

Q5 「ダム湖のむこうがわに見える谷はなぜできたのかな」観察ポイント3布引きダム湖の東岸より西側の谷を観察する

Q6 「合流点を左へ(川下へ)くだと、鉄板の通路があり観察ポイント4から川の向こう岸に断層粘土が見えます。どのように見えるかな。」

観察ポイント4 鉄板の通路上で、断層粘土が見える場所の指示 宮嶋。通路は狭いので他の登山者の通行の邪魔にならないよう注意。

10:45 (最後尾) ダムサイト下の広場 丸山、数越

Q1〜Q6のクイズの答えあわせ10分。よい質問・回答にはカードを渡す

11:00 (最後尾) 見晴らし台 根本

観察ポイント5

Q7「見晴らし台にある震災の碑を探して文言を読もう。なぜ、このような碑を建てたのかな？」

11:15 (最後尾) 登山道のT字路 宇井

観察ポイント6

Q8「この崖をみてごらん。どうなっている？」

11:20 (最後尾) 布引きの滝 荒井

観察ポイント7

Q9「布引きの滝はどうしてできたのだろうか。」

11:35 (最後尾) 登山道下誘導 中川・南島

観察ポイント8

新神戸駅と、諏訪山断層の位置関係と、基礎工事について解説。

11:45 (最後尾) 新神戸駅着 バスへの誘導 藤森

新神戸駅2階の淡路屋より弁当を受け取り、バスに積む

11:45 バス発車 バスの中で答え合わせ(数越)

12:25 バスが山頂付近の駐車場着 山頂に移動

12:35 昼食

12:10 大阪湾を望む景色を見ながら「地球の動きを書き込もう」を各チームごとに考える。

12:24 「地球の動きを書き込もう」の答え合わせ(丸山)

各チームから、それぞれ発表。丸山さんのまとめと説明。

13:40 バスへ移動

13:47 バス発車

バス中でのお話

- ・200年前の六甲山ははげ山(小林)

- ・現在の六甲山の風景を作った人、アーサー・ヘスケス・グルーム(天川)

- ・兵庫県南部地震の被害の話、復興の話(小林)

14:30 人防到着

14:33 人防前(屋外)でミーティング

- ・人防の建物の二重構造は何? → 窓が無いからデザイン。空調を促す役目。

- ・鎮魂の碑の説明(5時26分を説明、犠牲者の名簿が入っている)

14:40 黙祷、およびかねをならす。

14:50 5Fへ移動 10分休憩の後、各チームで「4つのナゾ」について紙に記す。

15:35 1Fへ移動

15:45 1Fで再開

- ・各チームから「4つのナゾ」の答えを、2から3つ選んで発表。

- それぞれについて、講師がコメント。

- ・神戸宣言の発表

- 「地震は一瞬、恵みは一生、共存していこう」

- 「一人の百人力より、百人の力」

- 「備えあれば憂いなし、災害のための準備しよう」

- 「困った時に協力して、どんな災害も乗り切ろう」

- 「自分ができる事だけでいいから、やれる範囲でがんばろう」

- 「もしもの時に備えておく」

16:40 カードの集計

各チームで集めたカードを白板に記入。→ 順位の発表

16:50 なまず博士認定証授与式

16:58 終了の挨拶(中川)

- ・名札回収・ホームページへの写真アップの説明・棒の回収・アンケートのお願い

17:15 チームごとに玄関に移動

17:25 写真撮影

17:30 終了

メモリアルカンファレンス in KOBEX

1月15日

10:00 数越、中川は、人防に集合。段取り確認、資料準備

13:00 人と防災未来センター防災未来館5階 参加者6人顔合わせ 宮嶋、干場、荒井、数越、中川

13:30 人と防災未来センター見学。メモリアルカンファレンスの分科会参加。
15:30 こども討論うち合わせ
17:00 終了、移動
17:30 JICA兵庫で夕食
18:25 CAP・HOUSEへ移動 「記憶マップ・神戸のために」フォーラム参加
20:30 ホテルチェックイン スタッフの部屋で討論。ビデオ編集会議。

1月16日

午前7時半 朝食
午前8時半 チェックアウト、移動
午前9時 人と防災未来センター集合、当日参加者と顔合わせ
午前10時 メモリアルカンファレンスの各分科会に参加 (MC_10-P. pdf 別紙参照)
午前11時 パネルディスカッション「私たちは何を受け継いでいかなければならないのか？」にパネラー出演、神戸宣言発表 (配付資料. pdf、こどもパネル. pdf 参照)

神戸宣言

2005年1月16日 人と防災未来センター
地震・火山こどもサマースクール参加者代表
『多くの手で生き返るまち、神戸』
身近な自然を知ろう～過去の災害から学ぼう～
自然の恵みに感謝して、災害が最小限になるような街と社会を創ろう
私たちが学び、知ったことを分かち合おう

正午 パネル終了、昼食
午後1時 メモリアルカンファレンス 総合討論に参加
午後3時 メモリアルカンファレンスXからの提言、終了。解散 (teigen. pdf 参照)

VI実践後

参加者への アンケート結果	講師の話については、よく分かった7、まあ分かった9、少し難しかった5 プログラムの人気の順は 実験とお話し5 建造物の揺れと液状化 実験とお話し2 断層の正体は何だ？クッキーの材料で断層模型の実験 実験とお話し1 兵庫県南部地震の正体は？ 航空写真での断層発見 実験とお話し6 地面の揺れってどうやって測るの。 六甲山を作っている石の話 公開パネルディスカッション 実験とお話し4 地面が揺れたら何が起きる？ 新神戸、布引のナゾを現場で探る 実験とお話し3 地震の証拠の塊だった六甲 ナゾについてみんなで相談しよう 六甲ケーブル山上駅展望台から六甲山と大阪湾の観察 実験のまとめのお話し 詳細は別紙参照	
成果として 得たこと	建物の揺れを実感できる新しい実験手法 新神戸駅から1-2時間で地震の証拠をたくさん確認できるコースプログラム 六甲山の地元に、六甲山の成り立ちを知る次世代を育てたこと	
成果物	中間報告で提出した参加者配付資料 中間報告会までに作成するビデオ教材 【制作案】 2本立て 概要編 10分以内 本編 15分 実験編 各10分 ＊視聴対象としては、一般地域住民・防災リーダー・教育者など ＊本編の構成（編集会議の時から尺の割り振りを再考） オープニング（1分）→実施コンセプト（2分）→これまでの成果（6分）→これからの方向性（4分）→エンディング（3分） （オープニング） 今まで実施した場所の風景など （コンセプト） サマースクール実施の意義など 風景に、子どもたちの表情中心に、わくわく、楽しそうな感じを出す。 （成果） 参加者インタビュー：参加したときの映像と現在の自分をインタビュー。こどもたちに語らせてしまう。 （方向性） サマースクールをどのように展開していくのかを説明。具体的なノウハウや理屈の部分も入ってくる。 （エンディング） サミット宣言・神戸宣言・エンドクレジット	
広報方法	広報した先	兵庫県庁記者クラブ
	広報の方法	資料配付
	取材にきたマスコミ	神戸新聞社、MBSラジオ（会場から生出演）
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	7月17日MBSラジオ「ネットワーク1. 17」 8月7日MBSラジオ「ネットワーク1. 17」 8月8日付神戸新聞神戸面、8月22日神戸新聞教育面（別紙）
	成功点	MBS、神戸新聞と、いずれも担当記者との関係を活かして、積極的に取り上げてもらえた。
	失敗点	震災関係の行事が多く、他の行事に埋没してしまったためか、他のメディアに関心を持ってもらえなかった。
全体の感想と 反省・課題	あれだけの地震があって、震災となっているにもかかわらず、地元の子もたちが六甲山の成り立ちなどについての、基本的認識が不足していることが改めて分かり、この種の教育が震災の教訓を伝えていくためにも不可欠であり、人と防災未来センターとの協働で実施したことの意義は大きい。 また、メモリアルカンファレンス in K O B Eに来た過去の参加者は、選抜された人だけに、大人の中に入っても堂々と持論を述べており、過去の参加体験で進路を決めた者もあり。これまでの実施プログラムが成果を上げていることが確認できた。	

	今回、初めての日帰り2日間のプログラムとしたが、過去の参加者アンケートなどから、宿泊型の行事と、日帰りの場合のプログラムの納得度が異なることがわかってきた。経費の問題、スタッフの問題もあるが、頭脳から体から、手先から、すべて体感して自然と災害と人との関係を実感してもらうための教育プログラムとしては、宿泊型にしたほうが、より効果が上がると思われる。	
今後の予定	来年度以降の進め方	2006年は、地震火山こどもサマースクールとしては、九州・霧島火山を舞台に、8月19・20日の予定で実施する予定である。 このほか、六甲を始め、過去のサマースクールにボランティア参加したスタッフの地元での同種プログラムの実施希望があり、学会委員会として支援を検討したい。
	是非実施してみたい取り組み	学会主体型だけではなく、三重県上野市社会福祉協議会の地域事業に協力して実施したような、地域連携型のプログラムへの支援協力ができるような体制作り。